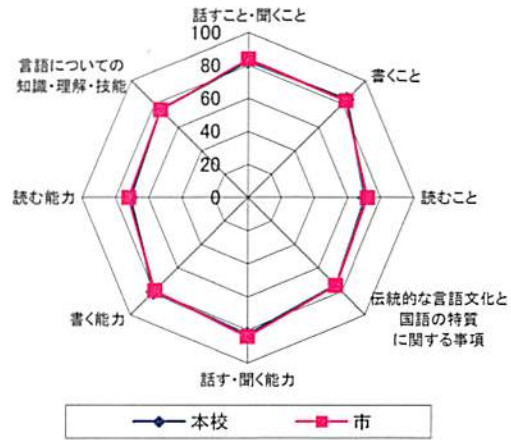


宇都宮市立横川中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.8	83.9	83.1
	書くこと	83.9	82.9	68.6
	読むこと	70.9	72.0	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	74.8	68.7
観点別	話す・聞く能力	82.8	83.9	83.1
	書く能力	80.3	79.3	67.0
	読む能力	70.9	72.0	67.8
	言語についての知識・理解・技能	75.3	75.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

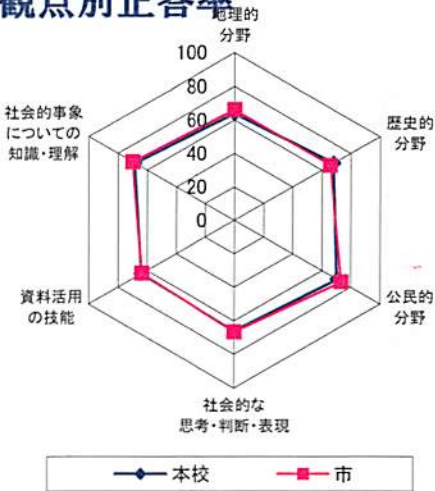
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	全体的に見ると、市平均より1.1ポイント低い結果であった。 ○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る問題では、市平均を2.7ポイント上回った。 ●正確に聞き取る問題では、市平均を5.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 話の内容を正確に聞き取ることができるようにするために、定期的な聞き取りテストを継続する。文章や会話文だけでなく、設問も聞き取るような応用的なテストを実施することで、細部まで聞き取る力を養う。
書くこと	全体的に見ると、市平均より1.0ポイント高い結果であった。 ○3段落構成で文章を書くという条件においては、市平均を6.7ポイントと大きく上回った。 ●自分のとった立場の理由を書くという条件においては、市平均を2.3ポイント下回った。	基本的な条件に合わせて書くことはできるが、自分の意見や立場の理由を具体的に述べる力が弱い生徒が多い。普段から、根拠として実体験などの具体例を挙げて意見を述べる習慣がつくような授業を展開する。
読むこと	全体的に見ると、市平均より1.1ポイント低い結果であった。 ○登場人物の心情を捉える問題では、市平均を2.2ポイント上回った。 ●書き手の論理の展開の仕方を問う問題では、6.6ポイントと大きく下回った。	説明文における筆者の論理の展開の仕方を捉えさせるために、基本の展開(起承転結・序本結)について理解を促す。また、段落ごとの働きや前後関係を正確に捉えるため、説明文を扱うごとに段落相互の関係を考える時間を意図的に設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	全体的に見ると、市平均と同じ結果であった。 ○敬語について理解している問題の正答率は、市の平均を11.3ポイント上回った。 ●第3学年までに学習した漢字を読むことができる問題や、小学校で学習した漢字を書くことができる問題では市の平均をやや下回っている。	漢字の読み書きの力を定着させるため、生徒に教科書を読むときに漢字の読みを確認させ、読み方の定着を図る。また、漢字の書き取りの確認をおこなうことで普段から漢字に対する意識付けをさせる。 授業中の発言において正しい敬語が使えるように普段から生徒に言葉遣いを意識させる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	64.0	66.2	58.0
	歴史的分野	68.3	65.8	60.8
	公民的分野	70.5	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.1	66.6	58.6
	資料活用 の技能	63.8	63.4	55.9
	社会的事象についての知識・理解	68.4	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

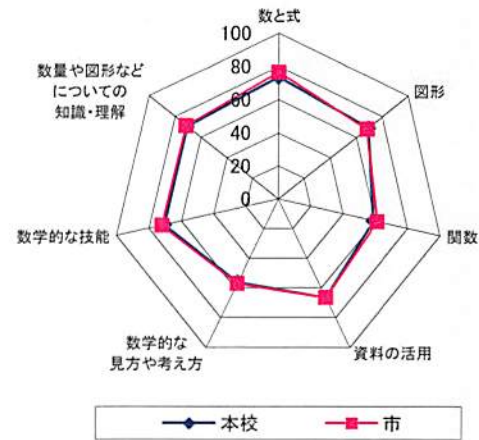
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	全体的には、市よりも2. 2ポイント低い正答率となった。世界の諸地域の問題では、資料から読み取り考察する問題の正答率が低かった。日本の農業に関する問題では、各地方によって理解度に差があり、市の平均を上回った地域もあったが、東海地方の農業に関する問題が、大きく平均を下回ってしまった。	ワークを中心に、基礎的・基本的事項の理解度を向上させたい。小单元テスト等も行い、基礎・基本のさらなる定着を図っていく。事象について考察させ、自分の力で表現する力も身に付けさせていく必要がある。資料の読み取りに関しては、デジタル教材を有効に活用し、グラフ等の変化や推移を視覚的に読み取らせるとともに、基礎的知識・技能を活用し、思考力や表現力の向上を図っていく。
歴史的分野	全体的には、市よりも2. 5ポイント高い正答率となった。中世、近世、近現代、すべて市の正答率を上回り、特に中世、近現代に関しては、全ての問題で市の平均の正答率を上回った。近世に関しては、江戸幕府の大名統制に関する問題が、やや正答率が低かった。	人物名や出来事をただ覚えるのではなく、必ず時代と関連づけることを意識させることを継続していく。歴史的分野に関しては、資料の読み取りや、事象の考察なども正答率は高くなっているが、地理同様引き続き、デジタル教材などを活用し、歴史的事象とその背景等を視覚的に読み取らせるとともに、思考力や表現力の向上を図っていく。
公民的分野	全体的には、市よりも3. 0ポイント低い正答率となった。憲法改正の手続きや、法律案が成立する過程についての問題は正答率が高かったが、議院内閣制や、裁判のしくみに関する問題が、大きく市の平均を下回ってしまった。	議院内閣制や裁判のしくみに関する問題が特に正答率が低くなってしまったので、三権分立とそれぞれの機関の関係に関しては、デジタル教材も活用しながら、特に丁寧に理解させる必要がある。公民的分野は、身近な生活と関わってくる部分も多いので、日々のニュースなども適切に取り上げ、社会に対する関心を高めていくことも必要となる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.8	76.7	72.6
	図形	69.2	68.1	63.8
	関数	58.8	61.2	54.4
	資料の活用	66.5	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	56.1	56.8	50.8
	数学的な技能	70.3	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	70.7	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

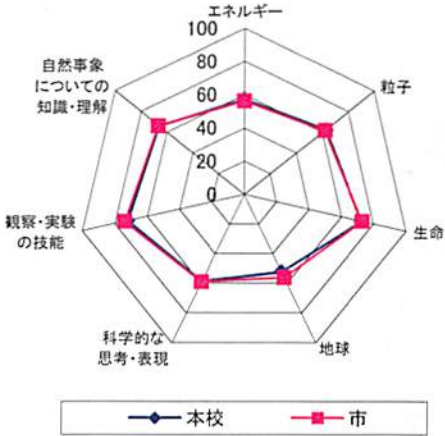
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○3学年で学習する根号を含む式の除法の正答率は、市平均を上回っている。また、各学年で学習する基本的な問題については、参考値よりも上回っている。 ●方程式・連立方程式・2次方程式を解くことが不得手である。	・3年生の問題は根号を含む計算は理解できている。1・2年生の問題も含め、習熟度学習などでの「学び直し」の機会をしっかりと設けていくことが重要である。 ・方程式をつくったり、解の吟味をして説明したりと表現力の育成が課題である。1つの問題をじっくり考え、丁寧に扱い、言語活動の充実の工夫をしていく必要がある。
図形	○作図・投影図・相似な図形の利用は、市平均を上回っている。三角形の合同の証明記述も市平均とほぼ同じである。 ●多角形の内角の和を求めることが定着していなかった。	・基本的な定理・定義の理解と図形認識はしっかりしている。多角形の内角の和を求めるなど、1・2年生の既習事項で、定着していない事柄は、類題を解くなど繰り返し指導していく必要がある。 ・証明問題の記述が苦手な生徒には、個別に丁寧に指導して、一人でも表現できるようにしたい。
関数	○関数関係の認識やxの2乗に比例する関数の変化の割合を求めることは、市平均より上回っている。 ●xの2乗に比例する関数のグラフ上の座標を求めたり、反比例や1次関数でグラフから式をことが不得手である。	・関数関係を理解するには、式・表・グラフを関連させて考えることが重要である。特にグラフから式の関係を関連させることを繰り返し学習することで、定着させていきたい。 ・事象を関数的な見方や考え方で捉える場면을重視して、関数の有用性を感じ得るようにした。
資料の活用	○度数分布表の理解は市平均以上で、相対度数を求めることは市平均とほぼ同じである。2つのヒストグラムを比較して説明することも市平均を上回った。 ●ヒストグラムの階級の幅を求める問題に難があった。	・度数分布表・相対度数に関連する用語をしっかりと理解させる必要がある。繰り返し指導していきたい。 ・資料を読み取り、判断して説明する力が定着するよう、引き続き指導していきたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.2	56.4	49.9
	粒子	62.8	62.0	57.4
	生命	72.6	72.9	67.1
	地球	52.2	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	58.6	58.8	52.1
	観察・実験の技能	72.0	73.8	67.6
	自然事象についての知識・理解	66.2	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

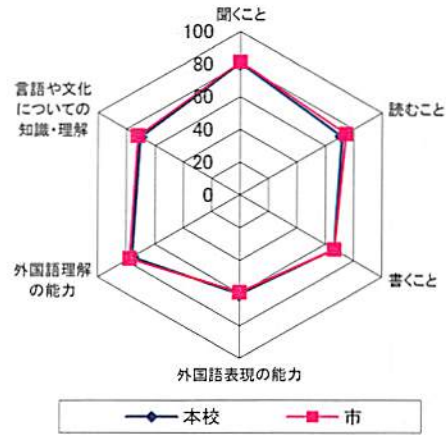
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均を0.8ポイント上回っている。 ○3学年の内容については、すべての設問で市の平均を上回っている。 ○光の屈折について理解しているかの設問については市の平均よりも大きく上回っている。	・エネルギーの内容については、市の平均を上回る内容が多く、比較的興味、関心を持っている分野である。一方で、下回っている内容は知識・理解であり、1, 2年次の復習的な内容を、継続的に授業で取り入れていく工夫をしていくことにより、内容の定着を図りたい。
粒子	○市の平均を0.8ポイント上回っている。 ○3学年の内容については、すべての設問で市の平均を上回っている。知識・理解が高い。 ○電離の設問については市の平均よりも大きく上回っている。 ●2学年の内容については、正答率が低い。	・3学年の電離やイオンの学習内容の定着に、多くの時間をかけた。導入時に、2学年の学習内容である、化学式、化学反応式の復習を取り入れた。復習の小テストを繰り返し行った成果が出たと考えられる。今後も継続していきたい。
生命	●市の平均を0.3ポイント下回っている。目の虹彩のはたらきの説明については、市の正答率より7.7ポイント下回っており、特に低い。 ○3学年の内容については、すべての設問で市の平均を上回っている。減数分裂についての理解は、市の正答率を4.0ポイント上回っている。	・生命の内容については、興味、関心を持っている生徒が多く見られた。多くの実験を取り入れて、興味を持続させたい。・目の虹彩のはたらきを説明するなどの比較的、イメージしやすい内容では視覚的な教材を工夫して、生徒の印象に残る授業を展開していきたい。・植物関連では、植物の観察などの体験的な活動を多く取り入れていきたい。
地球	●市の平均を3.8ポイント下回っている。春の温帯低気圧の動きの設問については、市の正答率を9.5ポイント下回っており、特に低い。 ○科学的な思考、表現の問題である火成岩のでき方については、市の正答率を4.0ポイント上回っており、よく理解できていた。	・天気の変り変わりに関心を持ち、ニュースや天気予報などに興味を持って生活することにより、日常生活と学習内容を結び付けていく。また、興味、関心の持てるような実験を組み入れていく。 ・知識を定着させるために、繰り返し小テストを行い、基礎をしっかりと身に付けさせる。

宇都宮市立横川中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	80.7	81.4	76.1
	読むこと	71.6	74.4	71.2
	書くこと	66.3	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	60.2	59.3	51.7
	外国語理解の能力	75.9	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	70.3	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	●市の平均と比べ、0.7ポイント下回っている。対話文に対する応答、絵を表している英文の聞き取りに関しては理解度が高いが、長い文章から要点を聞き取ることは苦手ようだ。	1つ1つの文を、内容だけでなく、対話全体の話題をとらえられる力をつける必要がある。そのためには、ALTを効果的に活用する。ALTの話す英語やリスニング問題の聞き取りにくい部分については、その文字を示し、目と耳で確かめさせるようにする。
読むこと	●市の平均より2.8ポイント下回っているが、過去進行形に関しては、市よりも0.5ポイント高い。文章全体から登場人物を把握したり、スピーチの要点を理解する問題では、5ポイント以上も下回り、非常に苦手としていることがわかる。	対話文の流れや長文の内容を理解するために、どんな登場人物がいるのか、事実関係はどのようになっているのかなど、大まかな流れをつかみとったり、大切な部分をとらえて適切に読み取ったりすることを重視した指導を行う。 実際の場面では、教科書だけでは不十分と考え、教科書本文以外の教材を意図的・計画的に準備する必要がある。
書くこと	●市の平均より0.2ポイント下回っている。まとめた内容で説明する文を書き表すことについては、苦手ようである。 ○しかし、動名詞・不定詞・比較表現については大きく上回っており、理解度が高い。	授業の中で、基本文を応用した自己表現活動や、あるテーマについてまとめて書く活動を継続して行うようにする。 モデル文を参考にして、自分のできる範囲で自由に英文を書く機会を多く与えたい。 英文を書くときに、例えば1文何単語以上などと限定せず、ある程度の単語数でよいので、3～4文の英文を書かせる活動などを行う。それにより、より自分の考えや意思を相手に伝える経験につながる。